

史跡めぐり歩こう大会

しょうがん
山田昌巖翁 350 周年記念

《とき》平成29年12月10日（日）

◎受付時間：9時00分～9時30分

◎出発：9時45分 ◎帰着：15時00分頃の予定

《ところ》出水麓歴史館（昼食会場もここです）

《コース》山田昌巖にゆかりのある史跡を中心に、出水地域に残る史跡を見学します。
歩く距離は、約11kmです。

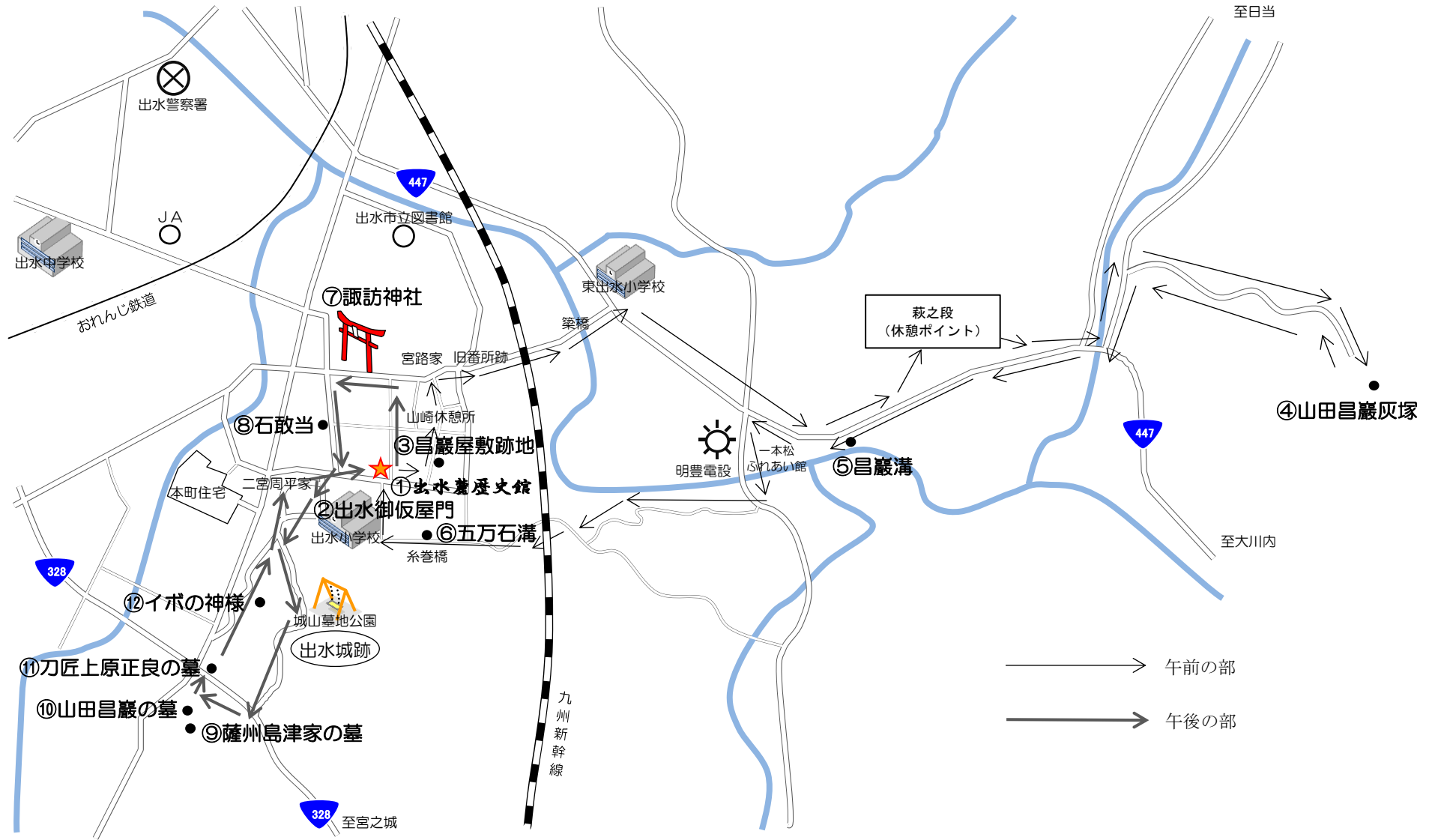
【主な見学ポイント】

- ①出水麓歴史館 ②出水御仮屋門 ③昌巖屋敷跡地 ④山田昌巖灰塚 ⑤昌巖溝
⑥五万石溝 ⑦諏訪神社 ⑧石敢当 ⑨薩州島津家の墓 ⑩山田昌巖の墓
⑪刀匠上原正良の墓 ⑫イボの神様



児請絵図

平成29年度史跡めぐり歩こう大会 マップ



一、出水麓歴史館

国の重要伝統的建造物保存地区であり、近世薩摩藩最大級の外城^{とじょう}である出水麓武家屋敷群の散策拠点として2017年5月1日に開館。

展示室には、武家屋敷群に関連する100点ほどの実物資料の他、模型やジオラマで「出水麓」を分かりやすく紹介。



二、出水御仮屋門^{おかりやもん}

出水御仮屋門は、風土誌「出水記」によると、「麓の小路は九字の形とかや、假屋の石垣は清正の贈り物、門は帖佐の城より移さる」とある。島津義弘は戦場での明け暮れで、心身ともに疲労を感じ、できれば出水に隠居しながら国境の守りを固めたいと思い、国境の重要な地である出水に隠居しようと考えていたようで、帖佐の鍋倉にある自宅の門（現在の出水御仮屋門）をいち早く出水に移させていたが、関ヶ原の戦い等で実現しなかった。

(S41年12月20日 市指定有形文化財)

(H23年4月19日 県指定有形文化財)



三、昌巖屋敷跡地

右の図の昌巖屋敷跡地は、^{きょうほう}享保年間(1716~1735)に作成された「麓衆中屋敷地小割帳」を基に、屋敷地割を想定・復元したものから推測された場所であるが、詳細については不明である。



七、諏訪神社

島津忠久が文治2年(1186)に、信州(長野県)の諏訪大社から、諏訪大明神を木牟礼城(かんじょう)に勧請(神仏の分身・分霊を他の地に移し祭ること)した。その後、島津国久が文正元年(1466)に現在の諏訪神社に遷宮し氏神としていた。天正年代(1573~1585)には祭典が厳粛に行われたという(諏訪神社由緒略記)。天正年代にはまだ麓の造成は行われていない。

祭神は建御名方神(たけみなかたのかみ)と八坂刀売神(やさかとめのかみ)である。向かって右の本殿に建御名方神を左本殿には八坂刀売神を祭っている。



八、石敢当

敢当とは、後漢代の武将の名前とも名力士の名前とも言われているほか、向かうところ敵なしという意味との説があるが、定かではない。

中国の風習である「石敢当」は、琉球を経て14世紀頃に日本へ伝わったものといわれている。

三叉路やT字路、L字路の突き当たりなど、邪気が集まりやすいといわれるところに立てられ、いわゆる魔除けのまじないとした。

松本邸石垣の石敢当



諏訪神社前の石敢当

九、刀匠 上原正良の墓

上原正良は現在の向江町に生まれ、本名は上原十左衛門といった。

はじめ高田伝(大分市)について刀鍛冶を習い、ついで波平伝(なみのひら)(鹿児島市)を大和守安行または安周(やすちか)から学び、さらに享保元年(1716)には、薩摩(そうしゅう)の相州伝名刀匠丸田正房の門に入り、三伝ことごとく自分のものとした。

薩摩では一撃必殺(じげんりゅう)の示現流の剣法が盛んで、彼もまたその奥義を究めていたという。自らの剣の体験と、三伝の長所を取り入れた実践的鍛刀は広く愛用された。出水に残っている上原正良作の刀は、現在、出水歴史民俗資料館に所蔵されている。





十、薩州島津家の墓

薩州島津家初代用久から7代忠辰^{ただとき}までの墓が並ぶ。用久は島津宗家9代忠国の弟で、兄に代って国一揆といわれた領内の反乱を鎮圧し、阿久根、野田、高尾野の諸城を収めて、享徳2年(1453)出水城(亀ヶ城)に入った。それから140年、出水は薩州家に統治されることとなる。

(S41年12月20日 市指定史跡)

十一、山田昌巖の墓

山田昌巖^{てんしょう}は天正6年(1578)に現在の日置市に生まれた。

福山(現在の霧島市)の地頭を30年務めたのち、寛永6年(1629)51歳の時に出水に赴任し、明暦3年(1657)までの28年間、出水地頭職を務めた。

農業に産業振興にも意を注ぎ、住民に親しまれ、善政をしいた。

島原の乱(1637年)を機に「児請^{ちごもうし}」を創設し、いわゆる「出水兵児^{いずみへこ}」の名がおこった。

昌巖は満90歳の高齢で萩之段で他界した。遺骸は田之頭で火葬されたのち、西之口の上高城^{うえたかじょう}に葬られた。法名「昌巖松繁庵主」とある。(S41年12月20日 市指定史跡)



十二、イボの神様(島津忠兼の墓)～伝承～

この墓は、薩州家6代島津義虎の叔父とも弟ともいわれる島津忠兼を祀った墓と伝えられる。

忠兼は野田・長島を領し、知勇兼備の武将として領民に慕われ、その名声は本家を凌ぐものがあった。そのため、これを快く思わない義虎にだまし討ちに遭ったという。

いつの頃からか、この墓にお供えした水をつけると、イボが取れると言われるようになり、イボの神様と親しまれるようになった。



～参考文献～

以下の文献を参考にしました。

- 『出水郷土誌 上・下巻』出水市（2004） 8,000 円
『出水の文化財』出水市教育委員会（2002） 500 円
『出水の石碑・石造物』出水市教育委員会（2001） 700 円
『出水の川と生活の歴史』出水市教育委員会（1991） 700 円
『出水の生活伝承』出水市教育委員会（2008） 700 円
『山田昌巖物語』出水市教育委員会（2015） 300 円
『出水麓 伝統的建造物群保存対策調査報告書』出水市教育委員会（1989）非売品